

〔曲名〕 Elogia

挽歌

〔曲種〕

〔作曲者〕 Eugenio Giudici

ユウジェニオ ジュディチ

〔編曲〕

第一次欧州大戦(1914-1918) はイタリア、フランスの斯楽にも大打撃を与えて、各地の活動は停止し、数多の研究誌は休刊して了った。

大戦が終わり疲弊した中からいち早く復興を目指してベルガモで活動し出したのが本曲の作者ジュディチである。

この作者は古譚や牧歌で親しまれているが出版せられたものは意外に少い。

ジュディチが常任指揮者になっていたベルガモマンドリン合奏団は却々由緒ある合奏団で、かのアマディを名誉会長に戴き各地の演奏コンクールに屢々(しばしば)出演して受賞した合奏団で、かのグラウコの悲しみを作曲したマッツオーラは常に主席ギター奏者であった。

一昨年夏同志社大学マンドリンクラブのOB指揮者岡村君はこのマッツオーラをベルガモに訪ね多くのマンドリン曲を贈られたが、

不幸にもその三ヶ月後にマッツオーラは逝いて了った。

私は最古参のマッツオーラ家には必ずや指揮者ジュディッチの手写譜があることを予想し、そのコピー入手を依頼したところ、

マッツオーラ家になく、その子息Nando氏が親切にも今はなくなったベルガモマンドリン合奏団の旧メンバーを訪ね歩いて、

三曲のジュッディチの手写譜を見出し、之を贈ってくれたのである。本曲はその一つ。

マンドリン古典合奏曲集13集より